学校番号	3022

令和2年度　公民科

教科	地歴公民	科目	倫理	単位数	2単位	年次	3年
使用教科書	「高等学校新倫理」新訂版（清水書院）						
副教材等	「最新倫理資料集」新版二訂（第一学習社）						

1.担当者からのメッセージ（学習方法等）

・何事についても、常に疑問を持ち、自ら考え、事物の本質を見つめ問い直すこと。

2. 学習の到達目標

・思想史を通して、現代社会に生きる人間としての生き方を考察する。
・人類が培ってきて思想についての基礎的な内容を理解し、現代にも通じる普遍的な価値について考察する。
・これらの学習を通じて、しなやかな批判力を持ち、自ら考え行動することができる人間となるのに役立つ思考力を身につける。

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a 関心・意欲・態度	b 思考・判断・表現	c 資料活用の技能	d知識・理解
観点の趣旨	現代社会に生きる一人の個人としての自覚とよりよき社会建設に対する関心や課題意欲を高め、意欲的に追求する。	現代社会に生きる一人の個人としての自覚とよりよき社会建設について考察し、公正に判断して表現する力を養う。	諸資料を活用し、構成に情報を分析し、まとめる能力を高める。	現代社会に生きる一人の個人としての自覚とよりよき社会建設についての基礎的な知識を身につける。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 小テスト

上記の観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分して評価する。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価基準	評価方法
一学期	○人間性の特質と青年期 ○源流思想 ・ギリシア思想 ・キリスト教思想とイスラーム ・仏教思想 ・中国思想	・人間存在の特性について理解させる。 ・青年期の課題を把握させるとともに、個々の行動や心理を客観的に理解させる。また、アイデンティティ確立の重要性を理解させる。 ・青年期の発達課題を理解するとともに、「生きる意味」「何のために」の必要性を理解させ、自分にとっての「生きる意味」を考えさせる。 ・ギリシア思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国思想などの源流思想が、今日の世界で未だ普遍的な価値を持つことを理解させる。 ・これらの思想を通じて、人類が正しさ・幸福・愛などを追求してきた過程を学び、それらが人生において持つ意味を考えさせる。	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a 学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む。 b 多角的に考察し、表現する。 c 諸資料を分析し、理解する能力を高める。 d基礎的な知識を身につける。	ワークシート 提出物 小テスト 定期考査

二学期	○近代思想 ・ルネサンスと宗教改革 ・社会契約思想 ・経験論と合理論 ・観念論 ○現代思想 ・功利主義と実証主義 ・社会主義思想 ・実存主義 ・理性主義批判	・近代哲学が理性を発見した過程を理解し、理性を中核に据えた近代的人間像について考えさせる。 ・経験論と合理論が科学的思考に与えた影響、それらを統合した観念論とその倫理観及び認識論が問いかける意味を理解する。 ・功利主義や社会主義といった、社会を考察する哲学の方法を学び、現代社会に与えた影響を理解する。 ・自己そのものに向き合う実存主義と、その思考方法を応用した様々な現代思想を学び、近代的価値観の転換について考える。 ・理性的人間像を破壊した現代哲学が指し示そうとする新たな人間像について考察する。	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○	a 学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む。 b 多角的に考察し、表現する。 c 諸資料を分析し、理解する能力を高める。 d基礎的な知識を身につける。	ワークシート 提出物 小テスト 定期考査
三学期	○日本思想 ・風土と伝統 ・仏教儒学の受容 ・国学と庶民思想 ・西洋近代思想の受容	・日本古来の思想と仏教、儒教の受容について学び、日本の精神風土を理解する。 ・開国以降の西洋思想の受容とその日本化について学び、日本の近代的人間像を探る。 ・日本的な思考が世界共通の普遍的なものであり得るかについて考察する	○ ○	 ○	 ○	○ ○	a 学習内容に関心を持ち、意欲的に取り組む。 b 多角的に考察し、表現する。 c 諸資料を分析し、理解する能力を高める。 d基礎的な知識を身につける。	ワークシート 提出物 小テスト 定期考査

※表中の観点について
a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現　c:資料活用の技能　d:知識・理解
※年間指導計画(例)作成上の留意点
・原則として単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。